

2007 年度の、保護者の方と職員の文集から

三人のお子さんをなかのに入園させた方です。そして今（平成 19 年 3 月）、3 人目のお子さんがなかの幼稚園の年中（もり組）に在籍していらっしゃいます。

三人のきょうだい

もり〇組 〇〇 〇子

3 人子供を連れとお母さんを見たとき、とっても豊かな感じがして、ずっと、三人きょうだいって素敵だなと思っていました。そして、我家にもお姉ちゃんとお兄ちゃんが少し大きくなった頃、いよいよ〇〇が生まれて来ました。いつまでも手がかかるように思えるお姉ちゃん、ちよっと自立の早いクールなお兄ちゃん。そして〇〇はどんなかというところ、氣遣いのできるやさしい子でいちばんの食いしん坊。3 人の中で一番大きく生まれ、落ちついた手のかからない子でした。1 センチ程の段差を一步踏み出すのも慎重に歩き出しました。

言葉が出はじめた頃、「ごはんだよ」と声をかけると一番に食卓につきました。いつまでも遊んでいる姉兄に私が「はやく、はやく」といつも呼んでいたら、〇〇も「あぐ、あぐ」（たぶんはやく）と呼ぶようになりました。そのうち「あぐ」は 2 人の呼び名になり、名前を覚えるのにしばらく時間がかかりました。

いつまでも赤ちゃんと思っていたお姉ちゃんも、〇〇の存在でしっかりしてきました。

お姉ちゃんにくっついて遊んでいたお兄ちゃんも近頃は、〇〇と男同士の遊びが出来るようになりました。三人がお互いに関係を発展させ成長している感じですよ。

三人の並んだ背中を見ると、私はこの上もない幸せを感じます。最高の宝ものです。時どき三人で泥沼の、ののしり合い、とっくみ合いをします。そんな時は心配ですが・・・

この回でさんぽみちも最後です。原稿依頼はちょっと気が重くなったりしますが、何を書こうか頭を悩ませることで、日常に流されてしまっただけ過ぎて去ってしまいがちな、子育てのこと、子供のこと、自分自身のことを振り返ることが出来ました。そして今の生活を見つめ直すことが出来ました。さんぽみちの存在に感謝しています。子供たちと私自身の原点になったと思います。